

令和6年産

# 大崎稲作情報 第6号

令和6年7月11日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

## 今後の管理のポイント

- ✓ 稲の生育量を判断して追肥を行いましょう。
- ✓ 間断かん水を行いましょう。
- ✓ いもち病や斑点米カメムシ類防除に努めましょう。

## 1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

6月第2半旬以降、高温傾向が続いています。梅雨入り（6月23日ごろ）した6月第5半旬以降は降雨が増加し、特に7月第2半旬の降水量は平年より多く、日照時間は少なくなりました。

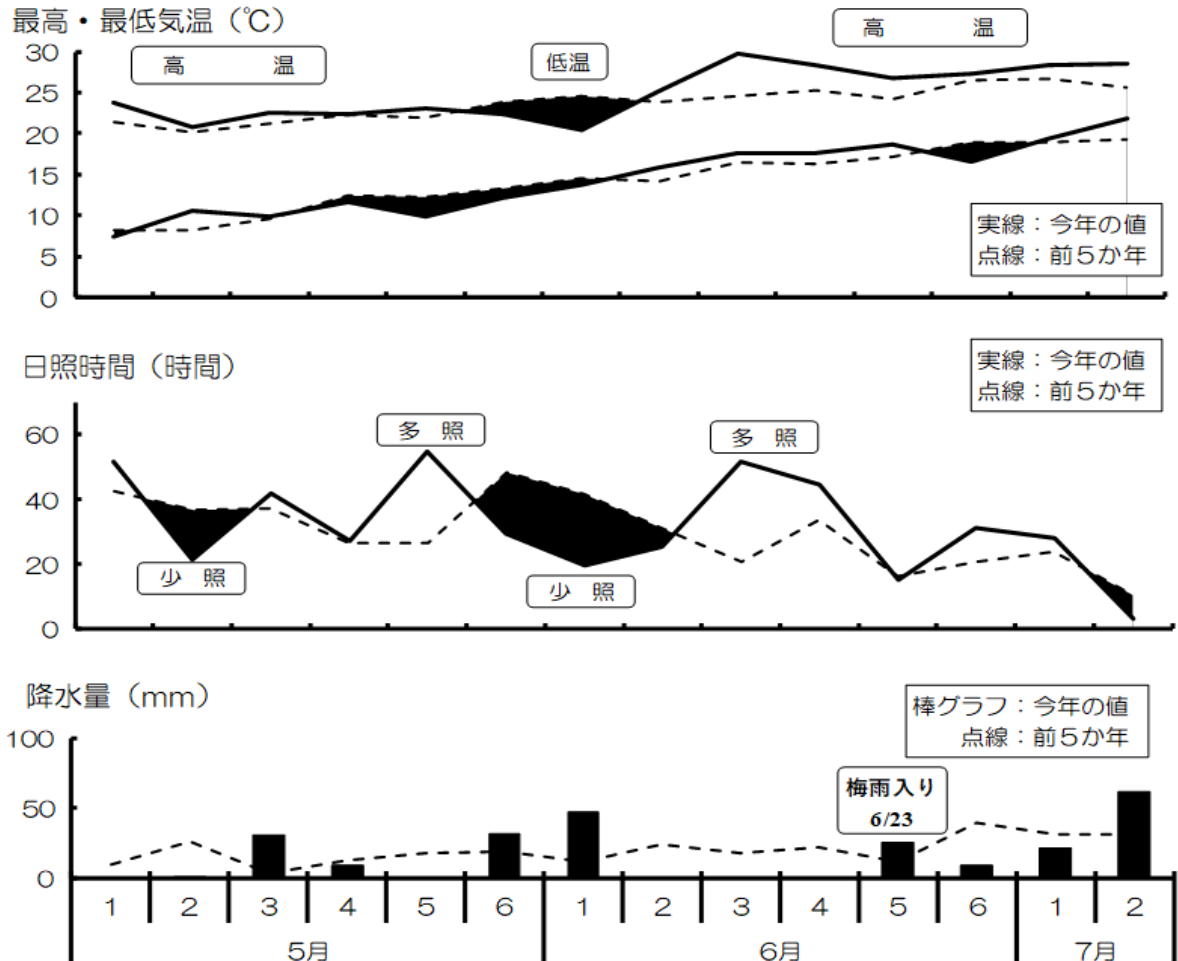


図1 5～7月の気象（古川アメダス）※前5か年平均値との比較

## 2 生育概況（7月10日現在）

6月第2半旬以降の高温により、生育は回復し、平年より進んでいます。草丈はやや長め、莖数は並、葉数は多くなっています。移植栽培では、5月連休移植ほ場では晩生品種まで、晩期移植ほ場では中生品種まで幼穂形成始期に達しました。

直播栽培でも幼穂が確認されており、4月上旬播種の乾田直播「ササニシキ」は幼穂形成始期に達しました。湛水直播「ひとめぼれ」もまもなく幼穂形成始期に達する見込みです。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植日 播種日	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	備考 幼穂形成始期
※ひとめぼれ	大崎市三本木	5月3日 (-1)	70.7 (105%)	575 (108%)	11.2 (+0.4)	40.6 (-0.9)	8.2 (+3.6)	7月4日
※ひとめぼれ	加美町小野田	5月18日 (+1)	61.4 (98%)	563 (109%)	12.4 (+1.6)	47.7 (+5.6)	1.0 (-0.1)	7月10日
※ササニシキ	大崎市古川	5月6日 (-2)	65.5 (103%)	539 (100%)	11.3 (+0.2)	44.5 (+3.4)	1.2 (-0.1)	7月10日
※つや姫	色麻町四竈	5月4日 (0)	69.2 (105%)	506 (88%)	12.2 (+1.2)	37.1 (-4.1)	6.2 (+5.9)	前4年比・差 7月5日
※だて正夢	大崎市三本木	5月9日 (-1)	73.1 (108%)	424 (96%)	12.0 (+0.9)	40.4 (+0.5)	2.4 (+0.3)	7月8日
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月4日 (0)	59.3 (110%)	640 (115%)	11.6 (+2.4)	43.2 (+3.3)	0.7 (+0.7)	
ササニシキ (乾田直播)	大崎市古川	4月2日 (-)	63.0 (-)	701 (-)	10.3 (-)	39.0 (-)	4.6 (-)	新規、前年乾直 7月6日
ひとめぼれ (乾田直播)	大崎市古川	4月19日 (-)	57.0 (-)	664 (-)	11.5 (-)	40.2 (-)	0.0 (-)	新規、大豆後
平均(移植栽培) (平年値のあるほ場のみ)		5月8日 (-1)	68.0 (104%)	521 (100%)	11.8 (+0.9)	42.1 (+0.9)		

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。

※平年比・差は前5か年（令和元～5年）の平均値との比較。「つや姫」は前4か年（令和2～5年）の平均値との比較。

## 3 出穂予想

古川アメダスの7～8月の日平均気温は、アメダス平年値(1991～2020)と比較して、前11年平均値(2013～2023)で 0.5℃、前5年平均値(2019～2023)で 1.2℃上昇しています。

今後の平均気温が前11年平均値並で経過した場合、中生品種の**出穂期は7月28日頃**の見込みです。

今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することがありますので、ほ場の幼穂長を確認し、随時生育ステージを把握することに努めましょう。

表2 生育ステージの予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期	7/10現在,7/11以降はアメダス前11年平均値で予測。今後、高温で推移する場合は、予測よりも早まる場合がある。
幼穂形成始期	4月28日	5月9日	5月18日	
減数分裂期	6月27日	7月4日	7月10日	
出穂期	7月7日	7月13日	7月20日	
	始期 7月22日	最盛期 7月28日	終期 8月2日	
平年(前5年)との差	3日早い	1日早い	平年並	

※対象品種は「ひとめぼれ」、「ササニシキ」

## 4 今後の管理

### 1) 追肥 追肥は生育量を判断して施用

生育量が不足している（葉色が薄い、茎数不足等）場合には、追肥が必要ですが、過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥をする際は、生育量（葉色の濃さ、倒伏診断指標等）を判断して行いましょう。（追肥の効果や目安については稲作情報第5号を参照してください。）

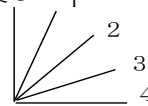
表3 「ひとめぼれ」、「ササニシキ」の倒伏診断指標

幼穂形成期(草丈×m <sup>2</sup> 茎数×葉色;10 <sup>5</sup> )								減数分裂期(草丈×m <sup>2</sup> 茎数×葉色;10 <sup>5</sup> )									
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)						倒伏 危険域	I	II	III	I	II	III	I	II	III
		38	40	42	44	46	48										
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4										
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8										
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3	倒伏									
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7	危険域									
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I									
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II									
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III									
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8										
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5										
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I									
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	II									
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5	III									
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2										
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9										
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	I									
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	II									
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III									
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0										
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9										
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8										
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7										
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II									
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8	III									
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9										
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1										
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2										

倒伏危険域

- I 倒伏度2を超える確率5~20%
- II 倒伏度2を超える確率20~50%
- III 倒伏度2を超える確率50%以上

倒伏度0



※倒伏診断指標は、「草丈×m<sup>2</sup>あたり茎数×葉緑素計値÷100,000」により算出。

### 2) 水管理 幼穂の発育には水の吸収が不可欠

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。特に、減数分裂期～出穂期前後は水の吸収量が最も多い時期となります。この時期に水分が不足した場合、幼穂の発育や開花受精が妨げられる恐れがあります。そのため、低温時を除いて十分に酸素と水を供給しましょう。
- ✓ 低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがありますので、深水管理としましょう。

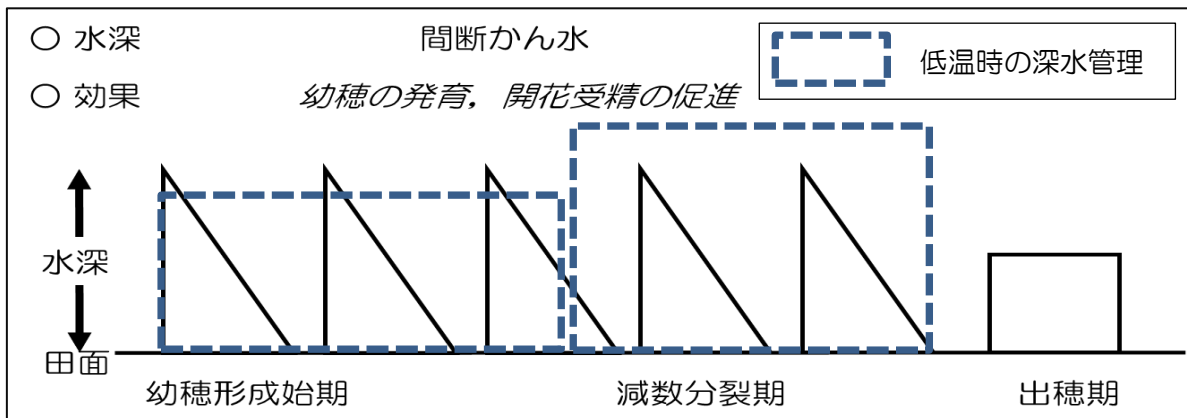


図2 今後の水管理

### 3) 病害虫防除 **出穂予想に基づいて適期に実施**

- ✓ 宮城県病害虫防除所の巡回調査では県南部及び県中部でいもち病の発生が確認され、防除情報(第2号)が出されています。ほ場を入念に見回り早期発見・早期防除に努めましょう。
- ✓ 紋枯病は、前年に多発したほ場では防除を徹底しましょう。
- ✓ 稲こうじ病は、窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。
- ✓ 宮城県病害虫防除所の巡回調査では、斑点米カメムシ類は平年よりやや少ない発生となっていますが、県北部の出穂したイネ科植物のある草地ではアカスジカスミカメの成虫が多く確認されています。多発の原因となるイヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1回目の殺虫剤散布を出穂始期～穂ぞろい期に早めましょう。

表4 主な病害虫の防除方法、防除時期の目安

病害虫	防除方法	防除時期の目安	30日前	20日前	15日前	10日前	5日前	出穂期	穂ぞろい期	穂ぞろい期 10日後	
いもち病	葉いもち	茎葉散布剤	発生が確認されたら直ちに散布						防除時期		
	穂いもち	水面施用剤	出穂30～5日前まで						防除時期		
紋枯病	茎葉散布剤	穂ばらみ期～出穂期							防除時期		
	水面施用剤	穂ばらみ期							防除時期		
稲こうじ病	水面施用剤	出穂20～10日前まで							防除時期		
斑点米カメムシ類	畦畔の草刈り	出穂期10日前まで	草刈り時期								
	殺虫剤×2	穂ぞろい期とその7～10日後							1回目		2回目

### 東北地方 1 か月予報

(7月13日から8月12日までの天候見通し)

令和6年7月11日

仙台管区气象台 発表※抜粋

#### <特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

#### <予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平均気温は、高い確率80%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

#### <気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	10	80
2週目	東北地方	10	20	70
3～4週目	東北地方	20	30	50

### ◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動(6月1日～8月31日)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬

使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

運動のテーマ 「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

★★★★★令和6年度生育モニタリングの生育状況（宮城県古川農業試験場）★★★★★

1 移植栽培（7月1日調査） 【古川農業試験場生育モニタリングほ場】

品種名	苗の種類	移植日	栽植密度 (本/m <sup>2</sup> )	基肥 (kgN/10a)	草丈(cm) ( 平年比)	莖数(本/m <sup>2</sup> ) ( 平年比)	葉数(枚) ( 平年差)	葉色(SPAD) ( 平年差)	幼穂長(mm) ( 平年差)	備考
だて正夢	稚苗	5月10日	18.5	5.0	59.5 (110%)	585 (113%)	9.7 (+0.1)	42.5 (-0.6)	0.06 (+0.06)	平年 比較
金のいぶき	稚苗	5月10日	18.5	5.0	53.8 (101%)	659 (103%)	10.0 (-0.2)	39.5 (-0.1)	0.03 (+0.03)	前年 比較

<だて正夢>

- ・倒伏判断指標に基づく減数分裂期に窒素成分2kg/10a 追肥を実施し、適正籾数の充実を図る。
- ・有効莖数不足(穂数不足)が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分1kg/10a ずつ施用する。
- ・病害虫防除は、「ひとめぼれ」に準じて行う。

<金のいぶき>

- ・減数分裂期の葉色値（SPAD502 値）を 30～32 程度に維持するため、幼穂形成期（幼穂長 1～2mm）に窒素成分で 1kg/10a 程度、減数分裂期（幼穂長 30mm～120mm）に窒素成分で 1kg/10a 程度追肥する。
- ・いもち病に弱いので、殺菌剤系の箱施用剤と水面施用剤による3回防除を基本とする。（※必要に応じて出穂直前に茎葉散布剤で穂いもち病防除を行う。）

2 直播栽培（7月1日調査） 【古川農業試験場生育モニタリングほ場】

品種名	播種方式	播種日	播種量(kg) ( 平年差)	基肥 (kgN/10a)	草丈(cm) ( 平年比)	莖数(本/m <sup>2</sup> ) ( 平年比)	葉数(枚) ( 平年差)	葉色(SPAD) ( 平年差)	幼穂長(mm) ( 平年差)	備考
ひとめぼれ (乾田直播)	グリーンドリル 鎮圧	4月12日	5.1 (-1.9)	11.0	51.0 (133%)	715 (131%)	9.3 (+0.7)	37.0 (+0.9)	- -	前年 比較
ひとめぼれ (湛水直播)	鉄コーティング	5月9日	2.0 (-0.8)	5.0	39.7 (99%)	530 (92%)	8.2 (-0.5)	40.1 (-3.0)	- -	平年 比較

<乾田直播>

- ・有効莖数確保後は軽めに中干しを行い、その後間断かん水に移行する。
- ・基肥一発肥料を施用している場合は基本的に追肥は不要だが、生育量が少ない場合は幼穂形成期から減数分裂期に1kgN～2kgN/10a施用する。有効莖数確保後は軽めに中干しを行い、その後間断かん水に移行する。
- ・いもち病防除を実施していないほ場では、防除を実施する。
- ・紋枯病の多発が予想される場合は、薬剤防除を実施する。

<湛水直播>

- ・高温多照の影響で生育が回復傾向。有効莖数確保後は倒伏対策を兼ね中干しを行い、その後間断かん水に移行する。
- ・いもち病防除を実施していないほ場では、防除を実施する。
- ・ノビエ等が残草した場合は、直播水稲用の中・後期剤で早めに防除する。

★★★★★ (https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzuyoho/index.html) ★★★★★

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

